



令和5年8月28日

かみせや

横浜市立上瀬谷小学校 学校だより

8. 9月号

上瀬谷小学校教育目標

学び合う子

認め合う子

鍛え合う子

誰にほめられるわけでもないけれど

校長 小林 京子

猛暑の昼下がり、私は出張先から学校に戻るため、瀬谷駅前からバスに乗り込みました。バスのステップを上がると、瀬谷中学校の生徒があいさつをしてくれました。ずいぶん大人っぽくなったなあ、今日は午前授業なのかしらと思いながら嬉しい気持ちでこちらもあいさつを返しました。ちょうどお昼時ということもあってか、バスの利用者が多く、冷房の効果も薄いと感じるくらいの混雑ぶりでしたが、車内の音は静かで話し声もほとんど聞こえません。少し落ち着いてから、車内を見回すと、乳幼児を連れた方や買物帰りと思われる高齢者の他に瀬谷中学校の生徒はたくさん乗っています。ベビーカーを重そうに持ち上げてバスに乗ろうとしている人に自然と手を貸している生徒もいました。友達同士で乗っている生徒、一人で考え事をしている生徒もいるのですが、おしゃべりの声は、ほとんど聞こえないのです。学校が終わり、ほっとした時間にもかかわらず、です。

中屋敷、竹村町、と生徒も乗客も少しずつ降りていきました。車内の雰囲気は、少しも変わりません。

学校に向かう道すがら、私は、暑さを忘れて大変すがすがしい気持ちになりました。瀬谷中学校の生徒の姿が印象に残っていたのです。暑い、混雑している、この状況を考えて、自分たちだけが乗っているのではない、という思いやりの空気を感じたからです。

また、ある方からこんな話を聞きました。

本校の児童が、足を引きずっている犬が散歩をしているのを見て、第一声に「わあ、がんばっているね。(がんばっているから) かっこいいよ。」と言ったのだそうです。その犬の飼い主さんは、「かわいそう」「どうしたの?」という言葉かけられることはあっても、そんな嬉しい言葉をかけられたことがないので、感激したということです。

どちらの行為も、だれかにほめられようと思ってやっていることではありません。子どもたちが日々の生活の経験の中から学んだ自然な行動であったり言葉であったりするのだと思います。たまたま、私が目にしたり耳にしたりした素敵なエピソードです。どちらのエピソードも7月の2回の朝会で子どもたちに話をしました。夏休みの間にも地域やまちで、こんな思いやりや親切な行動も広がっていたのではないかと思います。誰に褒められるわけでもないけれど…。

子どもたちのこんなことあんなことを見つけたら、ぜひ、校長室に届けてください。「ちよっとの素敵」が広がるきっかけを作りたいと思います。さあ、登校再開です。子どもたちの元気な声が、また学校にかえってきました。今月もどうぞよろしくお願ひいたします。